

# 杉の子

奥多摩町立氷川小学校  
学校便り 2月号  
令和5年 1月31日発行

## 「あたりまえ」の違い

主幹教諭 稲葉 義愛

昨年11月にカタールで開催されたサッカーワールドカップでは、日本代表チームの快進撃もあり、世界中から注目が集まりました。サッカーの試合結果以外にも日本が注目される場面がありました。それが「試合後の日本代表チームのロッカールームがきれいに整頓されていて、感謝のメッセージまで残されていること」と、「日本人サポーターによる試合後のゴミ拾い」です。この話題はテレビでも多数報道されましたし、ワールドカップが開催される度に繰り返されるので、御存知の方も多いのではないのでしょうか。

日本がワールドカップに初出場した1998年、私は大学の教育学部の学生で、時事問題についてレポートを書く課題に臨んでいました。サッカーが好きだった私はフランスワールドカップを題材にレポートを書くことにし、世界各国の報道を比較しながらネタ探しをしていました。そんな中、フランスの新聞「ラデペシュ・デュ・ミディ紙」が【日本が優勝】という見出しで日本チームを紹介しているのを見付けました。サッカーの試合ではすでに全敗しているのに不思議な見出しだな、と思いながら見てみると、そこには、「日本の素晴らしいところはサポーターの行儀のよさだけではない。ゴミ袋を持参しているし、携帯用灰皿を用意している人までいる。代表チームのロッカールームに至ってはテーピング一つ落ちていないし、ハンガーさえもきちんと片付けてあった。驚くべき光景だった。」と書かれていました。そして最後に「日本語でジェントルマンは何というのだろうか？」と、度々暴動を起こして話題になる、隣国イングランドのサポーター（フーリガン）を皮肉っていました。この記事はとても印象に残り、「日本の義務教育段階での清掃活動がこのような違いとなって現れるのではないか。」という内容のレポートを書きました。

時は流れ、私が区部の学校に勤務している時、外国の大使館から教育委員会を通して学校視察の依頼がありました。その国の教育大臣が日本の公立学校を視察したいとのことでした。希望する視察の内容は「給食と掃除の時間」でした。校長と一緒に生活指導主任だった私が校内の案内、説明などを行ったのですが、給食当番や掃除をてきぱきとこなす子どもたちにとっても感心していました。視察後の懇談で「子どもたちに給仕や掃除をさせて、保護者は不満を言わないのですか？」と質問を受けました。「保護者も子ども時代に給食当番や掃除を経験していること」、「保護者も自分のことは自分でできる人にしたいと願っていること」、「これが日本全国であたりまえに行われていること」などを説明しました。大臣は視察をととても喜び、「日本という国の素晴らしさを味わいました。」と話してくれました。

私たち日本人が「あたりまえ」と思っている行為でも、他の国では「あたりまえ」ではなく、それが称賛されることはとても嬉しいことです。学校での清掃活動の歴史について調べてみると、江戸時代の寺子屋で掃除が行われていたことから明治に入っても子どもたちに清掃させる学校が多く、やがてそれが慣習化されていったそうです。本校では、今日も縦割り班ごとに、高学年児童が低学年児童をリードして清掃活動を行っています。日本人が古くから大切にしてきた「身の回りを整える」習慣をこれからも大切にしていきたいものです。